

令和5年度 学校評価書

(計画段階・実施段階)

91

福岡県立鞍手高等学校(全日制課程)

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針		校訓「質実剛健 自学自習」、校是「たくましく前進者たれ」のもと、社会の変化に主体的に対応し、心身ともに健康で、五常の徳目を自己の生活規範となし、自らの可能性に積極的に挑戦する気概と叡智に富み、地域はもとより国際社会に貢献する人間を育成する。 ○学問を愛し、意欲的に学ぶ ○身体を鍛えて、強い実践力を身に付ける ○力をあわせて、美しい学校をつくる			評価(総合)	
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
創立百周年以降、次の百年に向けた新たな学校ブランドづくりをスタートさせ、文武両道の「たくましく前進者」を育成するという不易の教育理念を堅持しつつ、SSH及びSGH事業における先進的な研究活動等を通して、高大接続改革や学習指導要領の改訂を見据えた指導法の改善に学校全体で取り組んでいる。今後はSGH及び第Ⅲ期を迎えたSSHの研究成果を踏まえて、課題研究を核とする探究活動の深化をはかり、また、生徒一人一人の習熟に応じた学びを促すためにオンライン授業の効果的活用を進め、生徒の第一希望進路実現に繋げるとともに、本校の魅力を小・中学生へ浸透させることで入学志願者の増加を図ることが喫緊の課題である。		SSH第3期2年目に入り、これまでにSSH及びSGHで培われた探究活動を、全教科・領域で推進するとともに、大学や外部機関との連携を深め、教育活動の更なる充実・深化を図る。このような本校独自の学びを第一希望進路実現に繋げ、その成果を外部に積極的に公表し、地域へ浸透させることによって、志願者数の増加を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・大学、研究機関・企業・地域との連携を推進し、探究的な活動を充実・深化させる。 ・国内外への研修やICTを使った国際会議等への参加を積極的に行い、グローバル人材の育成を図る。 ・学習指導要領改訂の趣旨を生かした、本校の特色である探究活動を中心に据えたカリキュラムを開発するとともに、普通科再編を見据えた研究を進める。 ・地域や小・中学生に本校の魅力をを知る機会を多く提供する。 		
		一人一台端末の導入により、タブレット端末を有効に活用し、日々の授業改善及びスタディサブリの活用により個別最適な学びをより一層充実させ、確かな学力の育成を図るとともに、7年目となる英語イマージョン教育を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実践を更に強化する。また、キャリア教育の充実により、高い志を持ち自ら意欲的に学ぶ生徒を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上に向け、教師自らが高い志で研鑽を積むことで、授業力の向上を図る。 ・イマージョン教育による教科横断的な学びを活かしたすべての強化における主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 ・オンライン授業、タブレット型パソコン、まなボード等を積極的に活用する。 ・生徒の探究活動を充実させ、キャリア教育の推進により生徒に高い志を持たせ、第一進路希望の実現を図る。特に九州大学等難関大10名以上と国公立大100名以上の合格を目指す。 		
		学校行事や部活動、日常の学校生活の中で、生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いを大切にすることにより、豊かな人間性を育み、自律心と思いやりの心を持つ「たくましく前進者」を育てる。「鍛ほめ福岡メソッド」に基づき、生徒に自らの可能性に気付かせながら、自尊感情を培い、人間力を高める指導を組織的・計画的に行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校や社会のルールを「全校統一テーマ」により、生徒自身に考えさせることによって、主体的で積極的な集団参加の態度を育成する。 ・分団制の推進により、上級生がリーダーシップを発揮し、自主性や集団への帰属意識を高め、生徒の「生きる力」を育む。 ・感染症対策を図るとともに、部活動においては適切な休養日及び活動時間等を設定し、計画的・効率的な活動を心がける。 ・較高宣言の主旨を浸透させることでいじめの撲滅を推進するとともに、元気な挨拶が飛び交う学校にする。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
教務部	学務課	日々の授業の円滑実施と授業力の向上(ICT、オンライン授業等の活用)、年間行事予定・授業実施計画の作成・運用	時間割変更等を担当者の期間を決めて輪番で行うことで、担当者の負担の軽減を図る。若年者教員に教務部の仕事について理解を深めてもらい、次世代を担う人材を育成する。Teamsの効果的利用を促進する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割変更に関して、来年度も担当者の期間を決めて実施し円滑な運用を続ける。非常勤の先生方との連絡を密に行う。 ・評価に関して、実践の共有や、担当者の連携を密にし、常に評価方法の改善を行う。(年間指導計画の改善含む) ・SSH事業による評価と更なる結びつきを強め、生徒の自己評価や学びの自走につなげる手立てを行う。 ・生徒の個別最適な学び、協働的な学びについての職員の情報の共有や研修会を実施する。 ・本校の教育活動を様々な場面で広報し、本校志願者の増加に努める。(生徒が中学生に向けて教育活動の発表等を含む) ・授業時数の確保による学習保障や新課程における学びを深めるために新しいカリキュラムの検討を更に深める。 ・教務規定の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色化選抜の結果と入学後の生徒の状況をしっかり分析し、次年度に向けての改善を図っていただきたい。 ・ICT機器やオンライン授業を活用して、是非、個に対応した学びの早期実現をお願いします。
		適切な観点別評価の実施	新学習指導要領の理念に基づく新しい評価の実践を行い、教務規定を含め本校の実態に合わせて改善していく(SSHの評価法含む)。	B		
		新しいカリキュラムと学科・コースの検討	学校の現状と課題を踏まえ、それらを改善しうるカリキュラムの提案とともに、新学習指導要領と今後の教育情勢を反映できるような学科・コースについて具体的に提案する。	B		
		入学者選抜の確実な実施と新方式の検討	広報課と連携した中学生・保護者への広報活動をさらに活性化させる。今後も選ばれる学校であり続けるための具体的方策を検討・推進する。	A		
	情報課	校務支援システムの円滑運用	新課程の評価に関する職員間の共通理解を深めるとともに、校務支援システムの円滑な運用方法について検討を進める。 巡回訪問支援員と協力して、校務支援システムの適切な活用方法を職員に周知する。	B A		
		ICTを活用した授業改善・業務改善の推進	一人一台端末(タブレット)の効果的な活用を推進するとともに、職員・生徒がICTを活用しやすい環境を整備する。	B		
			職員が活用方法に関する情報交換や、教科・科目・担当者にあったICT活用の研修を行う。	B		
項目ごとの評価		学校関係者評価委員会からの意見				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見							
生徒指導部	生徒指導課	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒が元気で意欲的な学校生活を保障する。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自主・自律の心を高めることができる生徒指導を推進する。	B	B	<p>次年度の主な課題として、まず生徒の規範意識向上が挙げられる。今年度も地域の方々から多くのご指摘の連絡をいただいた。その要因のほとんどが生徒(保護者も含む)のルールやマナーを守ることができていなかったことである。このことから生徒の規範意識向上が大きな課題の一つであることがわかる。その課題に取り組むためには、全職員で日常的に粘り強く指導に当たることが求められる。その場面は授業中はもちろん、SHRや学校行事、部活動など様々な教育活動の中で行われるべきだと考える。共通の課題意識を全職員持って取り組む必要がある。また生徒へ率先垂範の姿勢を示すためにも、職員室内の机上の整理整頓から取り組むことを意識したい。教職員が互いに声を掛け合い、よりよい学校の環境づくりに努めていきたい。</p>	A	<p>・いじめ事案等について適切な対応と未然防止に向けての取り組みを再強化していただきたい。</p> <p>・引き続き鞍高生としての自覚を持って、文武両道を果たせる指導をお願いします。</p>						
		基本的な生活習慣の確立を図る。(挨拶、時間厳守、整理整頓)	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。また、定期的に登下校指導等を行い日常的な挨拶の励行を行う。	B										
		上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。また、定期的に登下校指導等を行い日常的な挨拶の励行を行う。	A										
			全職員による生活指導、マナー指導(情報モラルの育成を含む)を行う。	B										
	保健課	心身の健康を自己管理できる生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。	A	B				<p>コロナ感染症の第5類への変更に柔軟に対応しつつ、クラス担任や保健委員会を通して他の感染症も含めた予防意識と自己管理行動の育成に努めることができた。しかし、一部のクラスで感染拡大を止めることが出来ず、学級閉鎖に至ってしまった。感染拡大の兆しには、教員間の意識を高め、予防対策を強化すべきであった。美化委員会では美化コンクールの実施、掃除用具類の点検・補充など充実を図った。また昨年度課題であったトイレ使用状況や清掃については、トイレ使用に関する標語を掲示することで、改善が見られた。次年度も引き続き実施したい。近年、心に悩みを抱えた生徒が増加し、カウンセリングの重要性が増している。次年度もカウンセラーと連携を取りながら問題の早期発見、心のケアに努めたい。</p>	A	<p>・安心・安全な場の確保に努め、悩みを抱える生徒にとって鞍手高校が拠り所となる場所であって欲しい。</p>			
		委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	保健委員会、美化委員会を定期的に関き、生徒の健康観察や感染症予防、校内美化を徹底させる。	B										
			全生徒・職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。また、清掃道具等の備品充実を行う。	A										
			全生徒・職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。また、清掃道具等の備品充実を行う。	A										
	人権教育課	学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、各学年や各クラスでの指導の充実を図る。	A	A							<p>人権教育授業では、各学年の学年学習会で十分に検討して、生徒に対してわかりやすい内容で授業を展開することができた。講演会では、性的マイノリティについて講師ご自身の大変貴重な体験を話していただき、生徒たちは大いに理解と共感を得ることができた。学校行事や学級活動を通して、生徒間の良い人間関係を築くことができた。コミュニケーション能力の向上のために、細かい点まで指導を充実させたい。いじめアンケート、学校生活アンケート、学校満足度調査、保護者アンケートを実施して、早期に問題を発見して、クラス担任と学年を中心に着実に対応することができた。校内職員研修会では、実践発表を聞き、初心に戻って生徒を大切にするとはどういうことなのかについて考えるきっかけとなった。職員の人権感覚の向上のために、来年度はさらに充実した内容にしていきたい。</p>	A	<p>・カウンセリングを受けられる生徒が増加傾向にあるようだが、そのような生徒のケア・支援をしっかり行っていたきたい。</p>
		アンケートや職員研修を充実させ、生徒の実態を把握する。いじめ見逃しゼロ。	生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。	B										
			いじめアンケート等を毎月実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。	A										
			校内職員研修会を実施し、職員間で情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。	B										
進路指導部	進路指導課	地域の拠点校として、難関大10名を含む国公立大学+難関私大110人以上の合格者を目指す。	課外授業の充実。	B	B	<p>・学力層が大幅広くなると、下位層の引き上げに時間を要し、結果として成績上位層への指導が手薄になってきている。自学の日やハイレベル課外、スタディサブリを活用して、成績上位層への指導を充実させ、満足度を高めたい。</p> <p>・各種進路行事と日々の探究活動や学校生活との繋がりをもっと意識させる中で、進路意識の醸成に努めたい。</p> <p>・新課程入試に向けた指導の充実を図りたい。</p>	B	<p>・先生方が生徒の進路実現のために親身になって朝早くから夜遅くまでご指導いただいていることに対して感謝申し上げます。</p> <p>・共通テストの受験の際に先生方が会場まで応援に来てくださり、心強かったと言っていた。</p> <p>・地域の拠点校として、生徒の多様なニーズに応えられる進路指導をお願いします。</p>						
		生徒一人ひとりの進路実現を目指し、的確な進路指導を展開する。	模試の結果を分析し、学力層に応じた手立てを行う。	B										
		多様な入試形態に対応する。	スタディサブリの活用を一層促し、個別最適化の学びを進める。	B										
			各進路行事を通して、生徒の将来像を明確にする。	B										
	研修図書課	職員に必要な情報を提供し、問題意識を共有する場を設け、新たな仕組み作りや授業改善につなげる。	進路情報、入試情報の提供。	B	B				<p>・多くの先生方に指導していただく機会を作り、基本研修を充実したものにしていこう。</p> <p>・積極的に意見交換を行い、問題意識を共有したり、新しい情報を得る機会となるような職員研修にしていこう。</p> <p>・「朝読書」に取り組んだ成果として、「読書の種」に生徒の感想などを掲載したい。</p> <p>・芸術鑑賞会は生徒が芸術に触れる貴重な機会なので、今後も継続していきたい。</p>	B	<p>・PTA行事についての見直しを行い、時代に合った、必要とされる活動を行っていききたい。</p> <p>・鞍手高校ならではの魅力が広く正しく認識されるような広報活動の工夫をお願いします。</p>			
		生徒の感性を磨き、教養と見識を備えた生徒を育成する。	適宜情報交換をし、生徒に適した入試形態を模索する。	B										
			基本研修(若年研・中堅研)を計画的に実施する。	C										
			職員研修を通じて、問題意識を共有したり、新たな取り組みを検証する。	A										
			進路指導ノウハウの教員間の共有。	B										
			学年実施の「朝読書」をサポートする。	B										
企画部	庶務課	他分掌・PTA・同窓会との連携強化による諸行事の円滑化	学年実施の「朝読書」をサポートする。	C	B	<p>・防災訓練では事務室との役割分担を明確にし、実施要項をもとに当日の動きを確認する。</p> <p>・全校保護者対象の行事案内を生徒が保護者に渡していないことが多く、研修会等の参加者が少ないので、39メールを活用した保護者案内を検討する。</p> <p>・コロナ後のPTA・同窓会行事の復活も新しい形式を模索する必要がある。</p> <p>・中学校・学習塾訪問や年2回のオープンスクールの内容を精選し、昨年度を上回る参加者を確保することができた。今後はオープンスクールへの参加者が学検志願者と直結しているのかどうかを詳細に分析する必要がある。</p> <p>・中学校・学習塾訪問については志願者の動向を分析し、重点的な訪問地域を設定する必要がある。</p> <p>・夏のオープンスクールについては「魅力ある鞍手」をPRし、秋のオープンスクールについては「探究の鞍手」を引き続きPRして差別化を図る。</p> <p>・夏のオープンスクールの体験授業、秋のオープンスクールの入試問題の分析については先生方のご意見を集約し、来年度に活かしたい。</p>	A	<p>・PTA行事についての見直しを行い、時代に合った、必要とされる活動を行っていききたい。</p> <p>・鞍手高校ならではの魅力が広く正しく認識されるような広報活動の工夫をお願いします。</p>						
		防災教育の充実による防災意識の向上	「図書館だより」と「読書の種」を定期的に発行する。	C										
			芸術鑑賞会を計画的に実施する。	A										
			ホームページの積極的な更新を目指す。また、Instagram等のSNSを活用した情報発信を行い、本校の日頃の活動や学校行事等を配信する。	B										
	広報課	本校の魅力発信のための手立ての工夫と改善	オープンスクールの日程や内容の精選を行う。生徒会・部活動とも協力し、電子黒板等のICTを用いた工夫した内容で中学生だけでなく、保護者の印象にも残るよう工夫する。	A	A				<p>・防災訓練では事務室との役割分担を明確にし、実施要項をもとに当日の動きを確認する。</p> <p>・全校保護者対象の行事案内を生徒が保護者に渡していないことが多く、研修会等の参加者が少ないので、39メールを活用した保護者案内を検討する。</p> <p>・コロナ後のPTA・同窓会行事の復活も新しい形式を模索する必要がある。</p> <p>・中学校・学習塾訪問や年2回のオープンスクールの内容を精選し、昨年度を上回る参加者を確保することができた。今後はオープンスクールへの参加者が学検志願者と直結しているのかどうかを詳細に分析する必要がある。</p> <p>・中学校・学習塾訪問については志願者の動向を分析し、重点的な訪問地域を設定する必要がある。</p> <p>・夏のオープンスクールについては「魅力ある鞍手」をPRし、秋のオープンスクールについては「探究の鞍手」を引き続きPRして差別化を図る。</p> <p>・夏のオープンスクールの体験授業、秋のオープンスクールの入試問題の分析については先生方のご意見を集約し、来年度に活かしたい。</p>	A	<p>・PTA行事についての見直しを行い、時代に合った、必要とされる活動を行っていききたい。</p> <p>・鞍手高校ならではの魅力が広く正しく認識されるような広報活動の工夫をお願いします。</p>			
		受検志願者倍率の増加・拡大のための効果的な広報の在り方の確立。	各回の中学校・学習塾訪問の内容を精選し、受験生の不安を払拭する。また訪問後のフィードバックを確実にし、全職員に還元する。	B										
			充実したポスターや学校紹介パンフレットで広報活動ができるよう事務室との連携を密にする。	A										
			災害の発生に備え、防災訓練の充実と危機意識の涵養を目指す。	B										
	避難場所の選定を行い、備蓄品である非常食の管理を徹底する。	A												

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見		
特色化推進部	人間文科コースのさらなる特色化の推進および発展	持続可能な海外研修・校外研修等のあり方について検討を行う。	B	B	1年生の探究活動について、昨年度作成したテキストを運用しながら実施することができた。運用を行う中で、テキストの内容等について細かい部分で意見を出し合いながら協議することもできた。次年度以降作成するテキストの内容に反映させていく予定である。 人間文科コース2年生の課題研究については、本年度は「SDGs未来甲子園」にすべての研究班が応募を行い、うち、2グループが九州北部ブロックのファイナリストに選ばれた。 理数科2年生の課題研究について、本年度初めての取組として、6月に「テーマ発表会」を実施した。SSH運営指導委員の方々に指導・助言をいただき、仮説の立て方やテーマの選定等について、生徒はもちろん、指導する教員の側にとってもえるもの大きい発表会であった。「課題設定力」の育成にどれだけ寄与したかを、分析し、今後も継続していく。また、これから生徒たちが作成する論文については、「日本学生科学賞」などの外部コンテストにも提出できる様式・内容で作成させるための準備を行った。今年度の研究成果について、できるだけ多くの論文を来年度の外部コンテスト等に出品できるよう今後も取組を続けていく。 普通科2年生の課題研究について、昨年度、第三期SSHの取組が本格的にスタートし、学校設定科目「STEAM総合探究基礎」を履修した生徒たちが、本年度課題研究に取り組んでいる。本年度は大きく「人間環境」「社会環境」「生物・化学」「物理・数学・情報」の4つのグループに分かれ、各グループ内で7～9程度の班を編成して班ごとに研究を行っているが、特に、「人間環境」グループにおいて、警報音の研究を行うにあたり、データを統計的に分析しようとしている班や、「社会環境」グループにおいて、地域創生の研究において、紙を制作する実験を行う班があるなど、従来と比較し、教科横断型の活動が目立つようになっている。 また、SSH第三期のテーマに沿う形で、「石炭」に関する研究を行う研究班が、理数科、普通科にそれぞれ1班ずつあり、理数科の研究班は地元の大学の大学と連携、普通科の研究班は石炭記念館と連携しながら研究を行うなど、外部と連携した課題研究活動も従来以上に行われている。 人間文科コースについては2年生の海外研修を無事実施することができた。今後の海外研修の在り方については議論を続けていく。 理数科では昨年度天候不良のため中止となった1年生のサイエンスコミュニケーター研修を、本年度初めて実施することができた。福岡市科学館と連携し、サイエンスコミュニケーションについて学ぶというこれまでにない内容での研修となった。課題研究の発表会や鞍高祭での科学展示などで生徒の変容を調査し、この研修の成果についてご分析していく。 理数科・人間文科コースのパンフレット作成には至らなかったが、ホームページやオープンスクール、進路相談事業など、様々な場面で広報活動を実施し、理数科・人間文科コースのPRを実施することはできた。	A	・理数科や人間文科コース、SSHなど鞍高高校ならではの特色を最大限に生かして生徒の力を伸ばして行ってほしい。 ・地域の中学校にも積極的に広報活動を継続し生徒募集に努めていただきたい。	
		基礎学力の確実な定着のための習熟度別学習及びコース独自授業を活用し、コミュニケーション力・課題設定力の育成を図る。	B					
		パンフレットの作成等により、コースの魅力を発信する機会を増やす。	C					
		SSH課と連携し、サイエンスリサーチ、サマーセミナーに加え、サイエンスコミュニケーター研修を実施する。	B					
		基礎学力の確実な定着のための習熟度別学習及びコース独自授業を活用し、コミュニケーション力・課題設定力の育成を図る。	B					
		パンフレットの作成等により、科の魅力を発信する機会を増やす。	C					
	理数科のさらなる特色化の推進および発展	昨年度開発した第1学年における探究基礎の取り組みについて、進路指導部や学年部と連携し、改善を図りながら運営し、取組の定着を図る。	B					
		第2学年において、学年部と連携しながら「環境・エネルギー」を中心テーマとした課題研究を実施する。特に石炭記念館と連携した探究活動の在り方について研究・開発を行う。	B					
		第3学年において、すべての研究班に研究論文の作成に取り組ませ、課題研究論文集を作成する。	B					
		「環境・エネルギー」を中心テーマとした探究活動に取り組むことで、本校独自の「STEAM教育」の手法について研究する。	B					
		学校設定教科「STEAM探究」、および学校設定科目「数理科学Ⅰ・Ⅱ」、「数理活用」のオリジナルテキストを開発する。	B					
		大学や他の研究施設との連携を推進し、より独自性と発展性を高めた理数教育の実現を図る。	B					
探究活動を中心とした本校の特色ある教育活動の推進	第1学年、第2学年においては、全教科について、学びの開発ルーブリックによる生徒の自己評価を実施する。	B						
	教務部と連携して、自己評価、相互評価等、様々な評価を統計的に分析し、評価法の改善、指導の改善、および生徒自身の学習の改善に生かすことのできる資料を提供する。	C						
	地域の小・中学生等を対象とした実験教室等を開催し、理数教育ネットワークの構築を図る。	B						
	鞍高祭での科学展示、および筑豊プラチナ科学館等の取り組みにより、生徒のサイエンスコミュニケーション力の育成を図る。	B						
	HPや広報紙等で、SSHの取組を校外へ積極的に広報する。	B						
	SSH課	指導と評価の一体化の取り組み	第1学年、第2学年においては、全教科について、学びの開発ルーブリックによる生徒の自己評価を実施する。	B				
教務部と連携して、自己評価、相互評価等、様々な評価を統計的に分析し、評価法の改善、指導の改善、および生徒自身の学習の改善に生かすことのできる資料を提供する。	C							
外部との連携によるコミュニケーション力の育成とSSHの成果の普及	地域の小・中学生等を対象とした実験教室等を開催し、理数教育ネットワークの構築を図る。	B						
鞍高祭での科学展示、および筑豊プラチナ科学館等の取り組みにより、生徒のサイエンスコミュニケーション力の育成を図る。	B							
HPや広報紙等で、SSHの取組を校外へ積極的に広報する。	B							
学年部	基礎学力の定着、学習習慣の確立	授業の充実や個別指導による学習の場を提供し、基礎学力の定着を目指す。	B	B	・小テストウィーク、英単コンクールなど学年独自で基礎学力の定着を図ったが、さらなる向上を目指して、課題の出し方や日々の学習の仕方等を工夫し、学びの自走につなげる。 ・挨拶、返事、自らコミュニケーションをとることによって、相手の立場に立った言動を心掛け、良好な人間関係を構築させる。 ・時間間隔の緩慢さや我慢強さの欠如が目立ったため、基本的な生活習慣の確立させ、自立を促していく。 ・文理選択のための進路学習や個人面談を繰り返した。進路目標を掲げ、計画的な進路学習を継続していく。 ・外部模試での学力向上を目指した教科指導の充実を図る。 ・不安や悩みを抱えた生徒への個人面談の充実を図る。 ・学校生活での出来事や生徒の変化等を密に連携をとり、保護者と信頼関係を築く。	A	・1年生は特色化選抜試験を取り入れての初めての生徒である。基礎基本の習得をしっかりと行わせ、進路意識の向上に努めていただきたい。 ・2年生は、研修旅行や修学旅行等が計画通り実施できたことは良かった。次年度、最上学年として鞍高を牽引する生徒の育成をお願いします。 ・学年の活動だけでなく、上級生の経験値を、下級生に伝えられる分団活動は、文化祭や大運動会を見ても重要であると感じました。 ・経済的な理由で進学を断念する生徒を出さないよう、必要としている生徒に奨学金事業を積極的に活用してほしい。	
		K-noteを活用し、計画的な自主学習と学習習慣の確立を図る。	B					
		考査や模試等において、計画、実行、分析、改善のサイクルを徹底し、学力向上を促す。	B					
	自己発見、進路目標の確立	大学調べや進路講話などの進路学習を充実させ、自らの適性や将来の目標を定めさせる。	B					
		個人面談を適宜実施し、生徒の考えを知り、個に応じた進路指導(文理選択)を行う。	B					
		学年別進路説明会や三者面談、学年通信発行を通して、保護者と連携を図る。	B					
	社会性、自己指導能力の育成	時間厳守、整理整頓を徹底し、自己指導能力を磨く。	B					
		「考えて行動すること」を促し、ルールやマナーを守った学校生活を送らせる。	C					
		元気の良い挨拶、コミュニケーション能力の育成を通して、良好な人間関係作りを努める。	B					
	確実な知識の定着と0応用力の向上	知識の定着及び応用力の向上のため、スタサブの積極的活用と自走までの補助を行う。	A	A				「確実な知識の定着と応用力の向上」については、年度当初に掲げたスタサブの積極的活用に学年進路指導部が率先してアイデアを出しながらリードした。その結果教科からの課題配信なども増え、生徒の自発的な活用につなげることができた。また、朝の時間を使った要約の実施も徹底することができた。上記の活動は下より教科担当の取り組みや、堪忍の声掛けなど学年全体で学力向上に取り組む、僅かながら模試の成績も向上が見られ成果としてあげられる。 ・「進路目標の具体化」については、進路学習の一環として課題研究も取り組みつつ進めることができた。また、休業中に志望理由ワークブックの活用などし、具体的な進路意識の醸成に取り組めた。 ・「基本的な生活習慣の実践と学校行事に主体的に取り組む態度の育成」については、依然として遅刻や欠席が多く本学年の大きな課題である。特に次年度については、進路に向けて重要な情報も多い1年となるため、体調管理も含めて改めて休まないことを指導していきたい。
		理解力の向上のため要約の実施。	A					
		考査、模試、授業の振り返りや面談等で理解度の学力の確実な定着を図る。	B					
課題研究を通して社会的視野を広げ、進路選択の幅を広げる。		B						
進路目標の具体化		進路目標の具体化に向けて、SHR等で担副による声掛けや学年進路による取組を計画する。	B					
学年別進路説明会や三者面談等で保護者に対する進路の情報提供を積極的に行う。		B						
基本的な生活習慣の実践と学校行事に主体的に取り組む態度の育成	健康管理と休まないことの意義を説き、自己管理の徹底をさせる。	C						
	タイムマネジメントスキル向上の為に、スケジュール管理の徹底をさせる。	B						
	学校行事における運営スタッフの指導を学年全体で行う。	B						
自ら律する生徒の育成	健康管理に努め、安易に欠席をしない姿勢を持たせる。	B	B	・文化祭や運動会等の行事が従来通りに実施されたことは有難いことであった。手本とすべき行事体験がないながらも、互いに協力・工夫して、諸行事を成功に導いたことは、大いに評価してよい点である。 ・公私の区別をつけ、協働精神や静肅さを重んじる雰囲気を感じられた。、学年が上がるにつれ、それは習慣化され、生活全般に対する高い意識が育まれたと感じる。 ・出席停止の他、体調不良による欠席早退が多かった。入学以来、コロナ禍にあり、発熱や濃厚接触等については敏感にならざるを得ず、欠席をすることに対する抵抗感が薄らいだことも一つの要因だろう。 ・進路達成への意識を高く持つ生徒には添削指導等を通して、一方、自己の目標が明確ではない生徒たちに対しては、担任らが適宜個別面談を行いサポートした。大学入試が迫る中、その関係性をさらに深めることに努めた。				
	規範意識を高め、公私の区別をつけさせる。	A						
	美化意識の高揚を促し、清掃活動を徹底させる。	B						
	家庭学習の充実と基礎学力の定着・応用	大学入学共通テストに対応すべく思考力や探究力を育む。			B			
	進路目標達成への戦略を立てるよう促す。	B						
	個人面談を通して、生徒の言葉に傾聴しつつ進路達成への意識を高める。	A						
進路目標の達成(難関校10名を含む国公立100名以上の合格)	学力向上の基礎となる「読解力」や「表現力」の育成を常に念頭に置く。	B						
	外部模試・英語外部試験受験を促し、その指導を充実させる。	B						
	2年次までに育んだ「探究活動」を基に学習や進路について幅広く考えさせる。	B						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・本校の特色化をさらに一層推進するための学科再編の調査・研究
- ・志願者数増加を目指し、中学生とその保護者に本校の良さを確実に伝える広報活動の充実
- ・生徒の学びに向かう意欲を高めるための授業改善に関するアンケートの実施やICT及び一人一台端末の有効活用に関する職員研修の実施

評価項目以外のものに関する意見

特にありませんでした。